

収量増加を期待

ドローンで大豆の葉面肥料を散布

8月19日(月)

大津市関津の大豆ほ場 1.2ha で、葉面肥料「ハーモザイム」の散布をドローンで実施しました。

ハーモザイムは植物抽出液が主成分の葉面散布用肥料で、植物由来の成分が作物に活



ドローンで大豆の葉面肥料「ハーモザイム」の散布を試みました。

力を与え、健全な開花や結実、果実の肥大を促し、収量の増加に効果があります。

大津市産の大豆は、滋賀県の平均収量より少ないことが多く、ドローンで空中から散布することで肥料が等しく行き渡り、収量の増加につながることを期待されます。

当 JA は昨年度からドローンを導入して積極的に農作業に活用し、水稻や麦・大豆などの病虫害防除薬剤の散布のみならず、年間を通じてドローンの有効活用を模索。水稻直播技術「べんモリ」や畦畔雑草抑制剤のグラスショット液剤散布など、今回の葉面散布以外にも全国に先駆けた試みも行っています。

オペレーターをつとめた当 JA 南宮農経済センターの田中センター長は、「ドローンを使うことで、作業の省力化を図るとともに、品質の良い大豆が実り収量の増加も見込むことができれば、生産者にとっても JA にとってもこんなに嬉しいことはない。これからも生産者の力になっていきたい」としている。